

留学報告⑥

平成 30 年 2 月 1 日

岩手大学人文社会科学部

地域政策課程 2 年

中田秀樹

【留学テーマ】「岩手発」で再生可能エネルギーの浸透を一欧州の先進事例に学ぶー

【留学期間】2017 年 10 月～2018 年 2 月

【留学先】ドイツ・スイス

こんにちは。再エネ・創エネ導入の先進的事例を学ぶため、ドイツ南西部のヴァルトキルヒという街に留学しております、中田秀樹と申します。今回の近況報告のコーナーでは、もう 1 ヶ月以上経ってしまいましたが、ドイツのクリスマスクリスマスマーケットの様子をお届けします。また視察研修の内容については、ドイツとスイスで見学させて頂いた、地域密着型の中小企業について触れていきます。宜しくお願ひ致します。

《近況報告》ドイツのクリスマス

ドイツでは、クリスマスが近くなると、地域ごとにクリスマスマーケットが立ちます。飾りつけをされた簡易の店舗が街の広場に設営され、飲み物・食べ物、土産物などを購入することができます。またメリーゴーランドやスケートリンクなどの施設がある場合も多いです。

ドイツのクリスマスマーケットで飲まれる飲み物として、有名なのはやはりグリュウワインでしょうか。スパイスで風味をつけたホットワインで、とても体の暖まる飲み物です。子供や私のようにお酒が飲めない体質でも、アルコールフリーのものが探せば売られていますので、雰囲気を楽しむことができます。



(上) ハイデルベルク大学前の広場。何もないただの広場だったところに、気づけばメリーゴーランドができていたので驚きました

(下) ハイデルベルク、ビスマルク駅前広場のクリスマスマーケット。ソーセージやグリュウワインを求めて、多くの人が立ち寄っていました





シュヴァルツヴァルト、レーベンナ溪谷のクリスマスマーケット。大きな橋の下で行われるマーケットです。この日はクリスマス直前(12/22)だったこともあり、非常に賑わっていました。



なお、ドイツのクリスマスマーケットは12月23日まで、遅くとも24日の午前には終わってしまうことが殆どです。クリスマスの当日は家族と過ごす、ということですね。将来、観光で行こうと考えていらっしゃる方は、目当てのマーケットが開催されている期間をしっかりと確認しておくことをお勧めします。

《視察研修⑤》ドイツ・スイスの中小企業体

10月の視察研修では、地域密着型の様々な業種の中小企業を視察しました。どのような企業を訪問し、そこでどのような取り組みが行われていたか、いくつか抜粋して簡単にご紹介します。

・酪農業（ドイツ・フライアムト）

再生可能エネルギーによるエネルギーの自給率が100%を超えることで知られるドイツの村、フライアムトで酪農を営むシュルツ氏の案内で、フライアムトのエネルギー自給の様子を見せて頂きました。飼っている牛の排せつ物などを利用してバイオガス発電に取り組んだり、熱を利用して地域熱供給を行ったりと幅広い活動をされていました。

中でも、「(酪農からバイオガス発電に事業を広げたのは)餌をやるのが牛から微生物に変わっただけ」とおっしゃっていたのが印象に残りました。



・酪農業（スイス・メルヒナウ）

酪農業を営まれている方でもう一軒、スイスのドゥッペンターラー家にもお邪魔しました。こちらでは、地域の農家が共同で出資し、チーズ工場に併設する形で地域熱供給施設を設立・運営しておられました。チップボイラーを基幹とする熱供給施設の管理は簡易化されており、管理用のパソコンから施設の状況、一軒一軒の利用状況まですぐに確認できるよう体制が整えられていました。地域の企業、行政、住民の生活が非常に密接しているのが印象的でした。



で

・オルガン工房（ドイツ・ヴァルトキルヒ）

シュヴァルトツヴァルトの木材を利用し、オルガンを制作している工房も訪問しました。手回しオルガンに始まり、教会などにもあるパイプオルガン、自動演奏のオルガンなど、様々な形式のオルガンを制作していました。以前「木材のカスケード利用」をご紹介しましたが、(高級)楽器は木材に最も高い付加価値を与える用途の一つです。また、時代に合わせて様々な製品を打ち出すことで伝統を守る、変化することで不変を守るという姿勢も印象的でした。



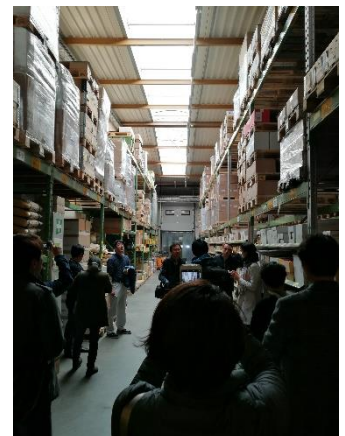
・建築業（スイス・ランゲンタール）

こちらは同じく工業系中小企業でも、施設規模も作るものもここまでに紹介した企業より大きい企業です。木造建築を手掛ける工務店、ヘクター・エッガー社を視察しました。木材をふんだんに用いた高性能住宅を販売しているこの企業は、自社工場も木造・高断熱とし、屋根には多くのソーラーパネルも設置してあります。木造・高性能のコンセプトが優れていると明確に考えているからこそ、自社工場でもそのコンセプトをブレさせることなく、顧客にも自信を持って勧めることができるのですね。



・食材卸売業（ドイツ・アイヒステッテン）

ドイツではチェルノブイリ原発事故と牛海綿状脳症(BSE)の件をきっかけに、食の安全への意識が高まりました。その中でシェアを伸ばした Bio 食品(オーガニック食品)を取り扱う流通会社、リーグリーン社を視察しました。ここでは 20 件の農家と契約し、1 万種以上の商品を扱っています。屋根に設置したソーラーパネルで消費電力のおよそ 1/3 を賄っているそうです。環境保護、宗教倫理、政治的意識などを背景に、Bio 食品の浸透に注力しています。近年では大手スーパーなども Bio に参入し、Bio の浸透という



意味では望ましいものの、一企業としては難しい面もあるというお話をいただきました。

今回はドイツのクリスマスマーケットについて、視察研修については訪問させて頂いた中小企業についてご紹介しました。次回はドイツの年末年始、そして年明けに参加した自然保護のイベントについてお伝えします。視察研修の内容では、「セクターカップリング」という考え方について扱います。よろしくお願いたします。